

施策評価シート（評価対象年度：令和元年度）

1. 基本的事項

① 施策名〔施策小〕	5 食育の推進	② 施策番号	4211
③ まちづくりの方向〔政策（章）〕	2 みんなが健やかで、みんなが助け合うまち		
④ 基本施策〔施策大（節）〕	2 すべての市民が生涯にわたって健康な生活を送れるまちをめざします		
⑤ 基本的方向〔施策中〕	2 健康づくりの推進		
⑥ 担当部名	⑦ 担当課名		
健康福祉部	保健推進課		

2. 施策の現状把握

〔1〕施策の対象・意図

① 施策の対象（誰、何に対して施策を実施するのか）	市民
② 意図（対象をどのような状態にしたいのか。何を狙っているのか）	食に関する知識と食を選択する力を習得し、生涯にわたって健全な食生活を実践することができるよう、健康づくりを支援する。
③ 環境（この施策を取り巻く状況はどのような状態なのか、また、国や府の動きはどのような状態で、今後どのように変化していくと考えられるか）	社会経済情勢の変化による食生活に関する問題や食の安全性の問題から、自ら食のあり方を学ぶことが求められている。国は、食育基本法に基づき「食育推進基本計画」を策定し、国民運動としての取り組みを推進。

〔2〕施策指標及び推移

施策指標（成果指標）		単位	指標とした理由・考え方
①	栄養指導者数（大人）	人	栄養指導後の成果をみる機会や指標がないため、栄養指導者数を指標とする。
	計算式		
②			
	計算式		
③			
	計算式		

	指標名	単位		H29実績	H30実績	R1実績	R2見込	R3目標	備考
①	栄養指導者数（大人）	人	目標値	1,038	1,121	1,200	1,200	1,200	
			実績値	245	294	310	—	—	
			達成率	23.6%	26.2%	25.8%			
②			目標値						
			実績値						
			達成率						
③			目標値						
			実績値						
			達成率						

〔3〕施策を構成する事務事業

	事務事業名	成果指標					総事業費（千円）			事務事業評価結果			重点化
		指標名	単位	H30実績	R1実績	R2見込	H30実績	R1実績	R2見込	総合評価	今後の方針		
1	成人健康増進事業	栄養指導者数	人	294	310	300	10,597	8,375	8,324	B	イ	ab	◎
2													
3													
4													
5													
6													
7													
8													
計	1						10,597	8,375	8,324				

3. 施策の評価

評価の視点	説明・コメント等
①本施策の意図すること(目的)は、上位施策(施策中)の達成にどのように貢献しますか。 (施策所管課等としての考えをお示ください。)	食に関する知識と食を選択する力を習得し、生涯にわたって健全な食生活を実践することができるよう、健康づくりを支援する。
②本施策で設定した指標から何が読み取れますか。 (2[2]の表の数値の推移から分析できることをお示ください。)	広く栄養指導を行うことで、食の知識の普及、健康づくりを行うことができる。
③本施策において市民、団体等との役割分担や市の関与は適切ですか。 (施策所管課等としての考え(理想と現実)をお示ください。)	関係機関・市民組織との連携を図りつつ、健康増進法に基づく市の事業の一部として実施しており適切である。
④施策を構成する事務事業は適正ですか。 (2[3]を踏まえ、施策目標に対し事務事業にずれはないか、数は適正かについて考えをお示ください。)	適正である。各教室参加者への集団指導や、個々の状態に応じきめ細かい個別指導を実施。
⑤施策を構成する事務事業の中で重点化及び縮小化についてどのように考えますか。 (2[3]において、◎、○、▲とした理由をお示ください。)	既存の事業への参加時や、食に関する不安等が発生した時にすぐに対応できるよう常勤管理栄養士を配置し、随時電話相談等にも対応することで、健康不安の解消、健全な食生活の実践をはかることができる。

4. 一次評価(所管課評価)

一次評価	評価(A～D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある
	B	成人期は仕事等のため、なかなか参加者を増やすことが難しい。各ライフステージ別の現状を把握し、それぞれの課題に対応していく	

5. 改革、改善案

即時的対応 (すぐに取り組む改善案)	正しい食習慣を身につけるため、集団の教室や個別の状況に応じた栄養指導を行い、行動変容を促す。
短期的対応 (1、2年のうちに取り組む改善案)	正しい食習慣を身につけるため、集団の教室や個別の状況に応じた栄養指導を行い、行動変容を促す。食育はライフステージ別の取組が必要であるが、食育の担い手である管理栄養士が、現在任期付き職員であり、計画に基づき、広い視野に立ち、また他機関との調整も併せて実施していくためには、正職での配置が必要であり、人員要望していく。
中長期的対応 (3～5年をめぐりに取り組む改善案)	正しい食習慣を身につけるため、集団の教室や個別の状況に応じた栄養指導を行い、行動変容を促す。食育はライフステージ別の取組が必要であるが、食育を担い手である管理栄養士が、現在任期付き職員であり、計画に基づき、広い視野に立ち、また他機関との調整も併せて実施していくためには、正職での配置が必要であり、人員要望していく。

6. 二次評価(行革・財産活用室評価)

二次評価	評価(A～D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある
	B	栄養指導の実施による取組が適切に実施されている。 市民の健康づくりの推進のため事業の利用者増に向けた新たな取組や展開について検討を進められたい。	